

第Ⅱ期

問題一

問一 傍線部ア～オのカタカナを漢字に改めなさい。

ア 傲慢 イ 特徴 ウ 確立 エ 終身 オ 昇進

問二 (A) から (D) に入る適当な語句を次から選び、記号で答えなさい。同じ記号は二回使用できないものとします。

A ウ (つまり) B オ (もし) C エ (たとえば) D ア (ところが)

問三 傍線部①「アイデンティティ」の辞書的な意味として最も適切なものを次から選び、記号で答えなさい。

イ (自己同一性)

問四 傍線部②「あらかじめ備わっている〈日本人・男・中学生〉という属性にもとづいて言葉を選んでいるのではなく」とありますが、その理由について、本文中の言葉をもとにして四〇字～五〇字で説明しなさい。

・私たちはだれでも、それぞれの状況に応じてさまざまに異なる言葉づかいをしていることがわかってきたから。(五〇字)

・同じ人でも、話す相手や、場所、目的、年齢に応じて言葉づかいが変わるのが自然だから。(四一字)

問五 傍線部③「アイデンティティを、その人が「持っている」属性とみなす」考え方を指す語を、本文中から六字以内で抜き出して答えなさい。

本質主義 (四字)

問六 傍線部④「そのアイデンティティが自分の「核」であるかのような幻想を持つ」とありますが、「幻想」という表現が使われているのはどうしてか。その理由について説明した文として最も適切なものを次から選び、記号で答えなさい。

ウ (自分が考える自分らしさは、コミュニケーションの反復によって確かなものだと信じられているにすぎないから。)

問七 傍線部⑤「アイデンティティをひとつに限る必要はない」とありますが、その理由について、本文中の具体例を一つ取り上げて、七〇字程度で説明しなさい。

・いじめられていたとしても、学校にいる自分がすべてではなく、家に帰って家族から愛されている自分を認めることでそれを支えに生きていけるから。(六八字)

・会社での人間関係が単純な上下関係ではなくなり複雑化している現代において、場面ごとに異なる複数のアイデンティティを生きる必要が発生したから。(六九字)

問八 次の1～5までの内容が本文の内容と合致する場合には○を、合致しない場合には×をつけなさい。

1 × 2 ○ 3 × 4 ○ 5 ×

- 1 発話する人の気質や性別によって多様なことばが使われることは自然であり、結果的に複数のアイデンティティが形成される。×
- 2 発話する状況や相手によって複数の顔が使い分けられることは自然であり、場面ごとに多様なアイデンティティが形成される。○
- 3 人は他人と関わりを持つとき、もともと備わっている自分の特質に応じてコミュニケーションの仕方を決める。×
- 4 人は他人と関わりを持つとき、多様なコミュニケーションを使い分け、複数のアイデンティティを表現している。○
- 5 人は他人と関わりを持つとき、「本当の自分」ともくり返し対話を行い、そこから最適のコミュニケーションを選んでいる。×

問題二

問一 ア 獲得 イ 領域 ウ こぶし エ 乱暴 オ へいがい

問二 チンパンジーはことばは覚えられないけれども、身振り言語の方は、かなり学習する能力があるということ (四八字)

問三 チンパンジーには言語能力がないということ (二〇字)

問四 視覚

問五 チンパンジーの言語習得能力に関する研究 (一九字)

問六 チンパンジーは勉強が面白くて、早く勉強室に行きたくて仕方がないから。

問七

一般の動物は、自分の生活に直接関心のある物や事物にのみ関心を向けるが、類人猿は生活に直接関心のない物や事柄に関心を持つこと。(六二字)

問八

潜在していた知的能力を掘り起こされ、新しい知的活動の領域が開かれ、彼らはそのなかで知的なよろこびに浸る、という楽しさを発見したから。(六六字)

問九

現在持っている能力レベルより少し難しい問題を出したとき (二七字)

問一〇

やさしい問題を反復して与えたり、難しい問題を強制的に連続して与えたりする方法。(三九字)

問一一 知的